

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

令和元年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について、中部運輸局へ別紙のとおり報告します。

◇事業評価について

中津川市では、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業」を活用して、公共交通の確保維持に取り組んでいます。国の地域公共交通確保改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、公共交通会議自らによる事業の実施状況の確認、自己評価を行い、その結果を地方運輸局に報告することとされています。

◇自己評価資料について

①自己評価（一次評価）作成様式 ・ ・ ・ 別添 1、別添 1 - 2

②第三者評価委員作成様式 ・ ・ ・ 中部様式 1、2

※②中部様式の提出は必要ありませんが、自己評価資料とするため独自に作成。

◇第三者評価委員会について

開催日：令和 2 年 2 月 1 7 日（月）

場 所：国土交通省中部運輸局（名古屋市）

※委員会への出席は 2 年に 1 度。中津川市は昨年度出席しているため今年度は出席しない。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月21日

協議会名:中津川市公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 矢平線	・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。 ・バスの運行時刻に合わせて受講できる公民館講座を開催した。	計画どおり事業は適切に実施された 【計画運行回数】 204回 【実績運行回数】 204回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/790人以上 実績/544人(達成率68.9%) 【考察・利用状況】 ・利用者はほぼ決まっている。 ・木曜日の利用者は多い。 ・時間に間に合わない方や間違える方が増えた。 ・利用者の高齢化が激しく、今後の利用減少が見込まれる(財布・鞆等を忘れ物をする方が増えた。)	・人口が減少する中、利用者の増加を見込むことは困難ではあるが、若い高齢者のバス利用を勧め、免許返納者へ向けたPRを行う。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 若山線	・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。 ・バスの運行時刻に合わせて受講できる公民館講座を開催した。	計画どおり事業は適切に実施された 【計画運行回数】 204回 【実績運行回数】 204回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/263人以上 実績/52人(達成率19.8%) 【考察・利用状況】 ・頻繁に利用していた方が乗車しなくなったため、かなり利用者が減った。 ・月に1度、決まって病院に行く方がいるが、若山線が無くなってしまわないか心配している。	・福岡地区の路線の中でも利用が少ない路線で、今年度は補助要件を満たさず補助対象路線から外れたが、国補助がなくとも市としては今後も運行を継続する。 ・定期券の購入でお得に利用できることをPRする。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。

北恵那交通株式会社	【福岡地区】 新田線	<ul style="list-style-type: none"> ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。 ・バスの運行時刻に合わせて受講できる公民館講座を開催した。 	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 206回</p> <p>【実績運行回数】 206回</p> <p>【運行割合】 100%</p> <p>A</p>	<p>B</p> <p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／905人以上 実績／744人(達成率82.2%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期券利用者が多い。 ・今まで利用の無かったバス停や、新規利用者があり運行路線の中で一番利用が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの存在を知らないという方がいるのも事実。バスの時刻表の配布、バスの乗り方も含めた周知が必要と考え、地域の産業祭で利用促進活動を実施した。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 本郷線	<ul style="list-style-type: none"> ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。 ・バスの運行時刻に合わせて受講できる公民館講座を開催した。 	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 206回</p> <p>【実績運行回数】 206回</p> <p>【運行割合】 100%</p> <p>A</p>	<p>B</p> <p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／767人以上 実績／608人(達成率79.3%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期券利用者が大半。 ・体調不良等のため乗りたくても外出できない人が増えているように見える。 ・いままで週2回利用していた方が1回だけになったりと個人の利用回数に減少がみられる。 ・定期券利用者が1名増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期券利用者が多いことから、今後も引き続き定期券の購入でお得に利用できることをPRする。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 上之平・下組線	<ul style="list-style-type: none"> ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。 ・バスの運行時刻に合わせて受講できる公民館講座を開催した。 	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 206回</p> <p>【実績運行回数】 206回</p> <p>【運行割合】 100%</p> <p>A</p>	<p>B</p> <p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／544人以上 実績／496人(達成率91.2%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期券利用が3人いたが、10月に1人が亡くなって2人になった。 ・利用者の高齢化が激しく、今後の利用減少が見込まれる(定期券の紛失や財布を忘れたりすることが目立つ。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期券の利用者の確保は、利用人数の維持につながる。 ・今後も引き続き利用者が維持できるようお得なバスの利用方法や、買い物でもバスを利用できることを周知する。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の通学手段確保のため継続運行を行った。 ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。 	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 244回</p> <p>【実績運行回数】 244回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	B	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／724人以上 実績／709人(達成率97.9%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時に利用される児童・生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝の便であるため、通勤での利用者の増減が、そのまま利用者の増減に直結する。 ・引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線 (H30.10～H31.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の要望を踏まえ、地域と事業者を交えて経路の見直しを行った。 ・終点を延長することで、小学生が自宅近くで降車できるようになった。 ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。 	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 120回</p> <p>【実績運行回数】 120回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	B	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／1740人以上 実績／1396人(達成率80.2%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終点を延長したことで、終点付近に住む小学生が利用するようになり利用者が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上野・外洞線と上野・外洞線(短縮ルート)は、帰宅する小中学生のスクールバスとしても利用されている。 ・H31年4月に実施した終点の延長により、自宅近くのバス停までバスに乗って帰宅ができるようになり、安全な登下校ができるようになった。 ・児童生徒の利用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線 (H31.4～R1.9)		A	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 124回</p> <p>【実績運行回数】 124回</p> <p>【運行割合】 100%</p>			
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線(短縮ルート) (H30.10～H31.3)		A	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 60回</p> <p>【実績運行回数】 60回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	A	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／728人以上 実績／1595人(達成率219.1%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終点を延長したことで、終点付近に住む小学生が利用するようになり利用者が増えた。 	
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線(短縮ルート) (H31.4～R1.9)		A	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 62回</p> <p>【実績運行回数】 62回</p> <p>【運行割合】 100%</p>			

株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・合郷線	<ul style="list-style-type: none"> ・通院、買い物にお出かけをする高齢者等の移動手段確保のため継続運行を行った。 ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。 	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 244回</p> <p>【実績運行回数】 244回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	A	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／312人以上 実績／523人(達成率167.6%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムの認知度が高まり、乗客がこの時間のバスに利用されるよううまく行動されている。 ・市街地から上野方面への帰宅、また上野と時鐘・矢淵から市街地へ行かれる利用者が増えた。 ・小学生の早帰り時(4時間授業終了の際)にも児童がこのバスを利用するようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は補助要件を満たさず補助対象路線から外れたが、今年度は補助対象となった。 ・目標値を大きく上回っているシステムであり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の通学手段確保のため継続運行を行った。 ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。 	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 244回</p> <p>【実績運行回数】 244回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	A	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／2112人以上 実績／2436人(達成率115.3%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学で利用される生徒が増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。 ・目標値を上回っているシステムであり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(下り)	<ul style="list-style-type: none"> ・通院、買い物にお出かけをする高齢者等の移動手段確保のため継続運行を行った。 ・Google経路検索などインターネットによる経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。 	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 122回</p> <p>【実績運行回数】 122回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	A	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／300人以上 実績／352人(達成率117.3%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時に利用する小中学生の利用が増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。 ・比較的使用が多いシステムであり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 西方寺・握・高部線	<ul style="list-style-type: none"> ・通院、買い物にお出かけをする高齢者等の移動手段確保のため継続運行を行った。 ・Google経路検索などインターネットによる経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。 	<p>計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 488回</p> <p>【実績運行回数】 488回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	A	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標／908人以上 実績／782人(達成率86.1%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂下診療所の診療時間が合わなくなったためタクシーを利用されるようになった方がいる。 ・外洞線、上野外洞線の高部～上握間がこのシステムと重複しているため、利用者が分散している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的使用が多い路線である。 ・タクシー利用が多い時間帯に運行する便であることから、バス利用もできることを周知する必要がある、今後も推移を見守る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月21日

協議会名:	中津川市公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>中津川市は岐阜県の東南端に位置し、山間部に集落が点在する中山間地域で豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちです。市の東南部にJR中央線を有するが、中心地域以外は路線バスがほぼ唯一の交通手段となっています。しかしながら、自動車利用の増加に加え、人口減少や少子高齢化によって公共交通の利用者が減少していること、また運転手不足の影響により、交通事業者の経営努力だけでは公共交通網の維持が困難になりつつあります。</p> <p>地域の交通体系におけるマイカーの重要性を認識しながら、利便性が高い公共交通ネットワークを実現し、複数の交通機関が役割を分担し、誰もが行きたいときに行きたい場所に行ける持続可能な公共交通網の構築を目指します。</p>

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

中津川市公共交通会議

平成20年6月4日設置

フィーダー系統 平成30年6月22日 確保維持計画策定

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ①利用者の減少で公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 自動車利用増 (2.33台/世帯、全国1.41台/世帯)
 - ✓ 人口減少・高齢化 (国調△2,027人、高齢化率31.7%)
- ②誰もがわかりやすい公共交通となっていない
 - ✓ バスを利用する外国人旅行者増大も案内不足
 - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③運転手不足で公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通網形成計画 (2018.3策定)

- 基本方針
 - ✓ 住んでよかった、住んでみたい街に
- 目標
 - ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
 - ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
 - ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に
- 期間
 - ✓ 2018年度～2022年度までの5年間



目指す姿とは

利用者を確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

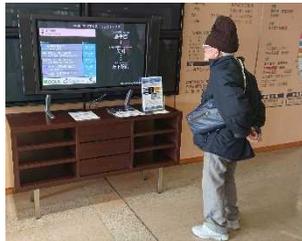
中津川に住もう！

■ 地域公共交通網形成計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、パーク&ライド、公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、タクシーを活用したお出かけの推進 など
②観光と利用促進	インターネットによる経路検索の充実、クリスマスバス、利用促進イベント開催、公共交通を使った市内観光の推進 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会、女性限定運転手体験会 など

■ 今年度実施した主な取り組み

★公共交通オープンデータの活用



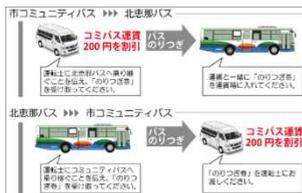
- データ整備からデータ活用へ
- 周辺自治体等のデータ整備に協力

★移住相談×運転士説明会 (東京)



- 移住に興味を持つ方を対象
- 運転士の仕事に焦点を当てた相談会を開催 (参加者16人)

★乗り継ぎ割引実証実験 (コミバス⇔路線バス)



- 2か月で11回の乗り継ぎ
- 乗り継ぎの実態を把握

★低速電動バス実証実験



- 観光、生活路線で運行



★公共交通利用促進イベント



経路検索体験会



クリスマスバス

■ 地域公共交通網形成計画における評価指標の考え方

- ✓ 網形成計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ①住民や来訪者による公共交通利用者を確保する
 - ②いつまでも中津川市に住み続けられる（高校生が自宅から通うことができる）
 ことを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 地域公共交通確保維持改善計画における目標値は、網形成計画の評価指標との整合性を図るため、補助対象系統ごとの利用者数を基準年度以上とした。
- ✓ 自己評価は2020年1月21日に開催した中津川市公共交通会議で承認を受けた。

■ 地域公共交通網形成計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標	2016年度 (基準年度)	2022年度 (目標年度)	2019年度 (実績)	評価
①住民1人あたりの公共交通年間利用回数※	8.6回/人	8.6回/人以上	9.2回/人	 達成
②北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	30.6%	30.6%以上	29.7%	未達成

※住民1人あたりの公共交通年間利用回数

- 公共交通利用者数を住民1人あたりに換算して算出
- 公共交通利用者数は中津川市内での移動を反映するため、下記を合計した数とする
 - 北恵那バス年間利用者数
 - 明知鉄道阿木駅と飯沼駅の年間乗車数
 - 自主運行バス年間利用者数（補助対象系統を含む）

■ 目標達成状況についての考察 (路線別の事業評価概要)

- ・ 系統ごとに経年比較し、利用状況を把握
- ・ 目標値は、網形成計画の評価指標との整合性を図るため、系統ごとの利用者数を基準年度以上とする

区分	目標達成 系統数	利用人数 (人)	主な考察・備考
民間路線バス (補助系統)	5/9	2016 (基準) 206,241 2019 (実績) 275,307 達成率  133.5%	○ 苗木城跡への観光客増加で、苗木城線が黒字化 ○ 外国人観光客の増加で、馬籠線の利用者数が増加。 あわせて現金収入も増加 ○ 外国人労働者の通勤定期利用が増加 (30人)
民間路線バス (非補助系統)	8/14	2016 (基準) 320,260 2019 (実績) 297,190 達成率 92.8%	○ 学生ホリデー切符の発売で、中津川市街地から福岡・加子母方面への学生利用が増加 × 高齢化による利用者減少がみられる
自主運行バス	0/4	2016 (基準) 54,181 2019 (実績) 48,502 達成率 89.5%	○ 小中学生が利用できるように経路や時刻を改正したことで増加 (坂下・阿木地区) ○ 地域要望により経路の延長で増加 (付知地区) × 頻繁に利用していた方が利用しなくなる (利用者の高齢化。認知症、施設へ入所、死亡など)
コミュニティバス	11/29 (4/12)	2016 (基準) 23,275 2019 (実績) 23,303 達成率  100.1%	× 小中学生数の増減が通学利用者数に直結 (目標達成系統数の()内はフィーダー補助対象系統)
明知鉄道乗車数 (阿木・飯沼駅)	-	2016 (基準) 85,680 2019 (実績) 76,004 達成率 88.7%	○ 明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画における年間利用者数の目標値を達成 目標 400,000人 実績 408,956人 (達成率102.2%)
合計	24/56	2016 (基準) 689,637 2019 (実績) 720,306 達成率  104.4%	○ 人口減少している割には利用は維持 【参考】住民基本台帳人口 (9月末) 2016 (基準) 80,399人 2019 (実績) 78,359人 (▲2.5%)

中津川市地域公共交通網形成計画に基づく事業実施を引き続き推進します！

主な取り組み その1

事業の進捗状況を踏まえ見直し
地域公共交通網形成計画を改定

課題

- 2018年3月の計画策定以降、事業環境の変化に伴い、新たな事業を計画に位置付ける必要が生じる

対応

- 新規事業の追加、事業の統合、記載内容の修正などの見直し



バスを利用した苗木城跡観光をPR

主な取り組み その2

最先端田舎への挑戦！
低速電動バスとICTを用いた地方都市バス活性化実証

課題

- バス利用者減少→採算性悪化→路線廃止への悪循環
- ICT時代の情報発信に堪えられない業務体制

対応

- 新規需要を開拓し、**収益性の高い路線設定**の方法論の確立
- 「紙と鉛筆とFAXによる職人技」から「標準化データによる**ワンソースマルチユース**」の業務体制への変革

実証①

観光交通と生活交通の新たな需要創出実証



低速電動バスの運行

実証②

地方バス事業者ICT化推進モデル



GTFSデータの活用で運行管理、バスロケなど

地域の公共交通網を守るため、
交通事業者や地域の関係者と協働で取り組んでいきます！

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

中津川市公共交通会議

平成20年6月4日設置

フィーダー系統 平成30年6月22日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
地域公共交通網形成計画において住民や利用者にも分かりやすく目標を設定し、ターゲット層の利用に繋がる事業を積極的に実施していることを評価します。	評価していただいた地域公共交通網形成計画に基づいて実施する20事業を、今年度も着実に実施しています。	今後も地域公共交通網形成計画に基づく事業を「できることから、ひとつずつ、そして着実に」実施し、地域公共交通網の維持に努めます。
今後は住みよいまちづくりを目指して、訪日客を除いた利用者数や収支率でもチェックするなど評価手法を見直し、持続可能な地域公共交通の確保・維持について引き続き努められるよう期待します。	現状の乗降調査や運賃回収方法では、訪日客を除いた利用者数や収支率を算出することは不可能と考えます。当面は現在の評価手法を継続し、必要があれば見直しも検討課題とします。	人口減少、少子高齢化対策は喫緊の課題です。移住定住を推進するために公共交通にできることは何かを追求し、地域公共交通網形成計画の基本方針「住んで良かった、住んでみたい街に。」を実現すべく、引き続き取り組んでいきます。

計画に基づいた事業を着実に企画・実行しています！

具体的な取り組み

アピール その1 山城日本一！苗木城跡 苗木城線が黒字を達成！

魅力あるコンテンツとの組み合わせで、公共交通の存在感を高め、収益を生む。



- 内容**
- 春と秋の土日祝に直行バスを運行
 - 来城者数増加（前年比164%）
- 結果**
- 乗車数増加（前年比250%）
 - 運賃収入増加で黒字化

アピール その2 地方バス活性化のモデルに！ 低速電動バスに高い満足度！

- 2019年8月に中山道で観光路線、市街地で生活路線を無償運行
- 78%の利用者が**有料でも乗車したい**と回答。高評価を得た。

アピール その3 公共交通オープンデータの取り組みが評価される！

- 総務省ICT地域活性化大賞優秀賞受賞
- 中部運輸局長表彰受賞



岐阜新聞（2019/10/6）



できることからひとつずつ取り組んでいきます！

さらなる
アピール

地域公共交通網形成計画の**進捗状況はWEBで公開**しています。
<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/page/070052.html>